西郷団地まちづくりニュース

~団地活性化に向けた勉強会を行いました~

第 6号

令和元年 12 月 19 日発行

市では、若者から高齢者まで多様な世代が暮らす活力ある団地づくりを目指して、30年度からの約3年間で、具体的な取組みについて検討を進めています。

今回は、11月15日に開催した第6回ワークショップの概要についてご紹介いたします。

第6回ワークショップ

日時:11月15日(金)18:30~20:30

場所: 鹿児島相互信用金庫 西郷団地支店

第6回ワークショップの流れ

団地活性化に向けた他の団地での実際の取組みの勉強会を行い、10年後、20年後にどのような団地を目指すのか、そのためにはどのような取組みが必要か等について意見交換を行いました。

① 団地活性化に向けた勉強会

小山先生による他団地での取組みについての講義 や、学生による高齢者の外出に関するアンケート結 果、伊敷団地での取組み状況の報告が行われました。

② 「はじめの一歩」の取組みの発表

ワークショップをきっかけに始まった「はじめの一歩」の取組みの状況について発表しました。

③ 意見交換

勉強会の内容を踏まえて、西郷団地では今後どのような取組みが必要かなど自由に意見交換しました。

4 まとめ



勉強会の様子



意見交換の様子

次回のお知らせ(※申し込みは不要です)

【第7回ワークショップ】 団地活性化に向けた取組みを具体化しよう

日時: 2月6日(木) 18:30~20:30

場所: 鹿児島相互信用金庫 西郷団地支店 2階会議室皆様のご参加、ご意見お待ちしております!

~団地活性化に向けた勉強会~

これまでに団地活性化に向けてワークショップを開催している3つの団地(西郷・伊敷・皇徳寺)では、どんな話がでたのか、どんな取組みが動き出したのか、鹿児島大学の小山研究室から発表していただきました。

「鹿児島市郊外住宅団地における高齢者の外出行動に関する研究」(卒業論文中間報告)

高齢化の進む団地で快適に住み続けていくために、団地に住んでいる高齢者の外出状況を調査しました。

7~8 割が週の半分以上外出しているという結果になりましたが、80歳を境に外出頻度や外出手段が大きく変化しています。

80 歳以上になると、自分で**車を運転するのが難しく**なり、 **外出頻度も減少**していくことがわかりました。



「3団地でのワークショップを通じて考えるこれからの団地活性化」



3 つの団地 (西郷・伊敷・皇徳寺) は<mark>開発時期が異なる</mark>ため、 5~10 年単位で生活環境や課題も変化していきます。

伊敷団地(開発から約50年)では、高齢化に伴う問題が顕在化し、問題意識を持つ住民が自ら活動しています。そうした活動がワークショップを通じてつながり始めている状況です。

皇徳寺団地 (開発から約 30 年) では、現役世代も多いため、 地域活動の担い手不足が課題になっています。

開発が段階的に進められた西郷団地(開発から約 50 年と約 30 年が混在)は、事業者の協力や多世代・専門職の参加のもと、具体的な取り組みが始まっている状況です。

団地の課題は「高齢化」そのものではなく、団地の空間やサービスが高齢期の暮らしに対応できていないということです。そのため、「地域を改めて知ること」、「高齢期の暮らしへ対応すること」、「まずやってみること」が大切です。

伊敷団地の取組み「いしっだんちのわ グループの発足からイベント成功までの軌跡」

伊敷団地ワークショップにて、「集まる場所づくり」のはじめの一歩の取組みとして、フリーマーケットを開催しました。

「i がずんばい Nishiishiki」というグループ名を決め、フリーマーケットイベントを「いしっだんちのわ」と名付けました。

出店や折り紙、福祉相談ブースなどを用意し、**子どもからお年 寄り**まで、多くの方に楽しんでいただきました。



~西郷団地での「はじめの一歩」の取組み報告~

空家交流班 からの報告

団地内のまちあるき

- ・団地内で使える空き家や空きスペースを探すために実施 し、大人から子供まで 18 人が参加しました。
- 活動を通じて人をつないでいくことも大切です。

ビルの屋上でバーベキュー

・団地内のビル(リック)の屋上を利用できると聞いたので 企画し、伊敷団地で活動しているメンバーとも交流しました。

マップ作りの見学

・団地のマップを作りたいと思い、勉強のために実際にマップを作っている地域に見学に行ってきました。

団地内の職人さん訪問

・団地内に**和紙作家・鹿児島弁講師**をしている面白い人がいると聞き、話を伺ってきました。



タイヨー西陵店 からの報告

イートインスペースの設置

- ・西陵店の改装を検討していたところ、ワークショップに参加している団地の住民から**イートインスペースを設置**してほしいと要望がありました。
- ・全てではありませんが可能な限りご意見を反映し、普段よりも**多くの座席を確保・手洗いスペースも設置**しました。
- ・イートインスペースを使ってイベント等を行いたいとき は、ご相談ください。





公園ベンチ班 からの報告

公園の調査

- ・五ケ別府町を入れて20箇所ある公園を調査しました。
- ・全ての公園にベンチは設置されていましたが、向かい合っ ているベンチはなく、東屋があるのも1カ所だけでした。
- ・公園に円形のベンチを設置し、みんなで話をする場所にしたいです。



使える場所 内

公園 の 活用

子育て・高齢者支援

広報

鹿児島市ホームページ 「住宅団地の活性化に向けて」



過去のまちづくりニュースや、次回のワー クショップ開催予定などもご覧いただけ ます。





ワークショップに参加している大学生等 によって運営されています。最新の話題 をお届けしています。

タイヨー西陵店(イートインスペース)

- ・通りから人がいる様子が見えるように、正面のガラスを透明にしてもらった。
- ・外から見えるので、壁を使って趣味や作品の個展を行えるのではないか。
- ・学生の勉強スペースとしても使いたい。

リック(屋上、3階スペース)

- ・屋上からは桜島と海も見える。3階には地域の方が使えるスペースもある。
- バザーなど小さな活動の時も公園を使いたい。
- ・防災訓練の一環で、公園でキャンプするのはどうか。
- ・高齢者が多いので、トイレを洋式にしてほしい。
- 公園を利用するには市役所の許可が必要なので、 後押ししてほしい。

ポイント:小さな単位

・大きな単位の活動は大 変だが、小さな単位で集 まることはできる

- ・高齢者(独居老人)が多いので、近所・地域との関係づ くり、見守りを進めていきたい。
- ・通学路にある空き家を不登校の子のための居場所とし て活用できないか。
- 子供が少なくなって行われなくなったバザーやマルシ エを開催したい。
- ・おやじの会でも、子供のためにタイヨーのイートイン スペース前の通路を使って縁日などをできないか。
- ・団地内に子ども食堂をやっているお店もある。既に活 動している団体とも連携したい。

ポイント:世代間交流

・お年寄りと子どもがつ ながる工夫が必要



ポイント:広報・周知

・今までの活動を次に繋

いでいくことが、団地

- ・団地内の人材や若い人を集めるための工夫が必要。
- ・まずはワークショップの参加者同士で**活動を共有**し て、各々が活動している場所にも情報を伝えていく。
- ・広報には、**町内会のミニミニ新聞や PTA に協力**しても らうのが効果的ではないか。
- ・町内会や PTA などと**小さな活動が連携**できるといい。

活性化にもつながる



○ 鹿児島市 都市計画課(担当:井上、諏訪田、宮)

連絡先: 099-216-1378 FAX: 099-216-1398

メール: toshikeikaku@city.kagoshima.lg.jp

○ ランドブレイン株式会社 鹿児島事務所(業務受託事業者)

連絡先:099-210-9091(担当:大脇、岩切)